

令和6年度 学校評価総括

本校では、毎年「より良い学校づくりのためのアンケート」を実施しており、今年度も、生徒、保護者、教員に対しアンケートを行った。質問は16項目あり、「教育目標から」「めざす教師の姿から」「重点項目から」の3つの柱を中心に構成されている。「教育目標から」は「本校の目指す生徒像」に関する項目（あ 挨拶、い 意欲、う 美しい環境、え 笑顔、お 思いやり）となっている。

○昨年度との比較から

生徒の場合、多くの項目で0.1ポイントの減であり、「目指す教師の姿から」の⑦、⑧、⑨で0.2減となった。昨年に比べて⑩以外の項目で、数値が下がっている。このことを踏まえると、昨年と比べて、どのような変化を生徒が感じているのか、職員は丁寧に捉えていく必要があるだろう。更に、⑦～⑧の結果から、生徒は日常的に関わっている職員に対して、何かしらの支援や関わり方の工夫を求めている、期待をしたりしていることが読み取れる。保護者では、すべての項目で数値が0.1～0.2ポイント減少している。経年では数値の大きな減少とは言えない項目もあるが、16項目中9項目で0.2ポイント減少しており、特に生活面や行事での取組に保護者が期待をしていることが伺える。一方で、職員の結果では、昨年に比べていくつかの項目でポイント増である。特に、②、④、⑥、⑦では0.3ポイント増であり、日ごろの取組を肯定的にとらえている。一方で、③では0.3ポイント減である。数値の変化の傾向が生徒、保護者と逆であることは注目すべきことであり、自分たちの取組が一方的なものになってしまっていないか振り返る必要があるのではないだろうか。

○三者の比較から

全体として、生徒と職員の数値については概ね同様の値であり、捉え方は共通していることが伺える。①、③で差があるが、職員はその違いが生まれた原因を生徒だけに帰すのではなく、生徒と共に振り返り、日常の取組について改善を図る必要がある。一方で、保護者のポイントは両者と比べて全体的に低い数値である。特に差があるのが⑪であり、保護者は生徒に学力をつけて欲しいという期待が大きいことが読み取れる。また、⑫の家庭学習への支援についての項目も数値が低い。これらを合わせると、学校と家庭が協力して、生徒の学力向上に取り組むことが重要だと言える。一方で、⑯は三者とも値は高く、数値の差もない。これは、生徒主体の行事を通して成長できたことを生徒自身が実感し、職員も支援ができていた結果として捉えられる。また、その様子を保護者に直接見ていただくことで肯定的な評価につながったといえる。その点を踏まえるならば、保護者に日常の様子を見ていただける機会は重要であり、その機会を増やすなど、保護者への情報発信がさらに求められるだろう。

○全体を通して

引き続き、わかりやすい授業への取組、生徒理解の推進、そして生徒主体となる行事計画に努めるとともに、家庭学習の習慣化と合わせて学力をどのようにつけていくかが課題である。中学校生活3年間で行われる様々な経験は、生徒の成長に大きな影響を与える。学校行事を通して、人間関係を培い、集団への所属感や連帯感を深め、学校行事を協力して行うことで生徒の成長につなげていきたい。そして、誉田中学校は、保護者の方や地域の方に支えられている学校である。これからも、保護者の皆様の期待に応えられるよう教育活動に邁進し、生徒と共に成長し続ける教師でありたいと考える。